

ももさと 通信

2024年
2月1日
第10号

〈発行〉社会福祉法人桃郷 〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3 TEL 0736-66-8851 FAX 0736-67-8851



すべての子どもに豊かな育ちを

URL <https://www.momosato.com>
E-mail mososato@galaxy.ocn.ne.jp



クラルテ人形劇がやってきた！

くらみ教室 平原 かつみ

1月17日（水）、ひまわり園・つぼみ園・くるみ教室・木の実教室合同でクラルテ人形劇鑑賞会を紀の川市貴志川生涯学習センターかがやきホールで開催しました。本物の人形劇に触れ、親子で素敵な時間を共有してもらい、お話の世界をもっと大好きになってもらおう機会に：という願いのもと毎年各事業所で開催していました。今年度は大きな会場をお借りして、初の合同開催となりました。

題材は「11匹のねこ」という子ども達も大好きなお話。45分間の長い人形劇でしたが、かわいい11匹のねこ達の声や動き、軽快な音楽、迫力のある大きな魚：と魅力的な演出が次から次に展開！子どもも大人も釘付けになった45分間でした。

受付はひまわり園の5歳児さんが担当。『おはようございます！』と元気に出迎えチケットにスタンプを押したり、パンフレットを配り案内してくれました。つぼみ園の5歳児さんは最後に劇団員さんへ『ありがとう！』と花束を渡してくれました。さすが5歳児さん。みんなをリードしてくれ、とてもかっこよく頼もしかったです！

この人形劇の「11匹のねこ」は『密』をモチーフのひとつにされていたそうです。

『密』の経験が楽しい事、うれしい事を11匹のねこたちから伝えられたら：という劇団員さんの思い。

今回は合同企画という事で、みんな一緒に観劇に、きつと子ども達も保護者のみなさんも最初はドキドキがあったのでは：と思います。始まってしまおうと、とても温かい雰囲気の中、劇団員さんの思い・職員の願いと共に、みんなで楽しい・うれしい時間を過ごすことができ、それがまたひとつの大きな経験になったのでは：と感じた素敵なひと時でした。

社会福祉法人桃郷 30周年記念事業

実践報告会を開催

一人ひとりの豊かな育ち

○助言者
(まとめ)
竹澤大史先生 (和歌山大学教育学部准教授)

○報告者
平原さとみ (くるみ教室管理者)

北川知津代 (つくしんぼ園主任保育士)

小万和紀 (青空管理者)

笠原千愛 (ひまわり園発達相談員)

○司会
山本翔太 (つくしんぼ相談支援室管理者)

さる11月23日(木)、午前10時から、岩出市「ホテルいとう」において、法人設立30周年記念事業の第3弾として法人職員による実践報告会を開催しました。

当日は、役員及び職員を合わせ82名の参加があり、報告者の発表の後、参加者による意見交換を行い、最後に竹澤先生によるご助言をいただきました。

山本：今回の30周年記念事業に当たり、職員実践報告会開催の趣旨を説明させていただきま。桃郷では「発達保障」の視点に基づいた保育・療育実践を行っています。発達をさせるのではなく、子ども一人ひとりが主人公として、自分で自分をつくり変える営みであり、それは権利でもあり、私たち職員の役割は、それらを支えていくことにあります。そのような視点に立つて

実践を行っていくためには、一人ひとりの子どもも理解が重要となります。しかし、増加する日々の業務や、深刻な人手不足の状況の中、一人ひとりの子どものことを職員同士でじっくりと語り合う余裕もない現状もあり、一度立ち止まり、私たちが大切にしたい実践の視点をみんなでふり返り、共有する機会をつくりたい、そのような思いから今回の実践報告会を企画しました。

なお、今回の報告者たちは以下の3つの目標を持って、実践報告をまとめました。

- ① 子ども理解をより深めるために。
- ② 世代交代や職員の入れ替わりもある中で、自分たちの思いを継承していくために。
- ③ 多様な支援プログラムの増加の中でも、ふれずに自分たちの実践を積み重ねていくために。

それでは、報告者の方々実践報告をお願いします。

いつを大切にできる？「今」でしよう！「みんなであっ楽しかった」の毎日を

平原：Aちゃんは2歳児。偏食があり、給食の時間が苦手で、職員もどう対応していけばいいのか悩んでいたときに障保連の研修で神戸大学の赤木先生のお話を伺いました。今を犠牲にしてもかまわない保育の例えとして、はがいじめ偏食指導のお話をしてくださり、職員一人ひとりたくさん学びがありました。

研修後にもAちゃんには同じ偏食メニューでの対応でしたが、以前のようにな保育士の必死感はなくなり、Aちゃんの食べる楽しみを大切にと視点が変わったからか、Aちゃんが食事をとるようになってきました。

また、職員みんなが赤木先生のお話をきっかけに、「みんなAちゃんにいたい」と思っている。「やっぱりみんな同じ思いだったんだ」「Aちゃんの『今』を大事にしよう！」とはっきりと思いをはっきりできました。このことで、保育士の給食時のAちゃんへの圧がなくなったのを、Aちゃんは感じ取ったのではないのでしょうか。「たっただけで!?」と思うかもしれないかもしれませんが、とても大きな変化だったことはAちゃんの姿から感じられました。

Aちゃんが怒っていたのは「食べさせられる・座らされる」という「させられ感」が伝わっていたのだろうと今になっては考えられますが、視点が変わる前には必死で気づけていませんでした。また、視点が変わったことで、Aちゃんの「ギャー」と怒る声がかさばとしてとらえられるようになってきました。「できない」ことを「できる」ようにする実践から、子どもの今を大事にする実践にすることで「あっ楽しかった！」という毎日に繋がり、子どもを変えていくのではなく子どもが変わる保育になっていくことを改めて感じました。Aちゃんは現在、まだまだ丁寧な関わりは必要ですが、お話やお歌が大好きになり、Aちゃんの好きな歌をみんなであうととても楽しそうにするようになりました。言葉も単語がはじめ、大人のことは「ママ」と呼んだら、音量の調整は難しいので、声は大きくてびつくりすることも多いのです

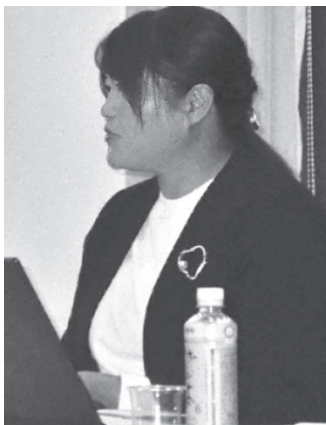


右：山本（司会） 左：平原（発表者）



参加者

が、嫌な事など「イヤ〜」と伝えるようにもなりました。背中を掻いてもらうのが気持ちいいように背中保育士の手を持っていき、掻いてほしい所に保育士の手を動かして、ここ！とアピール。Aちゃんのことを好きになつたお



北川 (発表者)

**子どものありのままを大切に
裸一貫から始めよう**

北川：Bくんは、つくしんぼ園に入園してから2年半、乳児期から様々なことに過敏（服を着ないなど）で、不快な事も多かった生活。それを大人が無理に変えて行くのではなく、どんな子どもの姿もありのまま受け入れる事の大切さを改めて感じました。始めに、

友だちもできませんでした。泣いて怒ってばかりだったAちゃんのお顔が増え、あ〜楽しいが伝わってくるようになり、母もそんな様子を見て、微笑ましく会話をしてくれると私たちも嬉しくなりました。くるみ教室は2歳児の1年保育というところで、保育士たちはいろんな思いや葛藤を抱えながらの保育。保護者の方も入園時にはまだ療育の必要性を理解し受け止めて入園されている方は少なく、早期療育や低年齢ゆえの難しさやドタバタ感もありますが、たった1年だからこそ、子ども達との時間や子育てがはじまったばかりの保護者の方との時間を丁寧に、そして大切にしていきたいと思えます。

述べたよう、「どうすれば、服が着れるのか」ではなく、「子どもの不快な思いをきちんと受け入れる」。「今、必要な関わりは何なのか」と立ち止まり、発達相談員を含めた職員間、そして保護者を交え話し合うことの重要性を感じました。そこから、見えてくる「ありのままを受け入れる」。それは、決して何もかも許すことではなく、受け止めること。Bくんが安心して生活する環境を作り、大人との信頼関係を築くことを念頭において保育してきました。目に見える成長は周りが感じやすい所ですが、目に見えない内面の広がり、日々の丁寧な関わりが、年齢を重ねるにつれて、Bくんらしく生きる生活のエネルギーになっているように感じます。保育士として、大人の価値観を覆されたり、「大人として、どうあるべきか」、「療育とはなにか」と日々、考えさせられますが、「どんな幼児期をすごしていきたいか」、安全、健康、子どもらしさ、笑顔、自信、そして自己表現など、それらを考えると自然と答えが見えてきました。保育士の意見や考え方もいろいろあつて、当たり前前。その考えを職員間で伝え合い、話し合いをする事で、同じ方向性を見出し、保育の幅も広がっていき、園、職員の団結、職員同士の信頼、保護者との関係も作られていきます。

また、Bくんの保護者だけではなく周りの保護者との関係も大切です。他の保護者からの温かみのある言葉に職員だけでなく、他の保護者もBくんを認め、自然と関わることで園生活を豊かにし、また楽しく過ごせる場所となりました。私たち保育士も経験したことのない子どもの姿に価値観を広げて貰い、子どもの見つめ方、保育の在り方、療育の原点に触れさせてもらうことができました。



小万 (発表者)

仲間がいるからできるんよ

5歳児になり、気持ちの豊かさから、興味の幅、活動の幅に広がりがあった事で、大人の目を引こうとする行動も増えてきました。そのような行動も単に制止するのではなく、しっかりと向き合い「してほしいくないこと」「危険なこと」を丁寧に伝えていきたいと考えます。そんな中でも、「やってみたい」「僕も一緒に!」と意欲的に取り組む気持ちを大人や友だちを含んでしっかりと積み重ねて、Bくんがたくさんの人に囲まれて、園生活を充実したものにしていきたいと思っています。

小万：言葉としての表現力はごくわずか、生活力の面でもまだまだ課題や支援が必要なC君。彼の何気ない出来事から、色々と考察し、支援の課題点を



参加者からの意見

出しあえるような時間が必要なんだな
 と思い、支援をしていく基本的な姿勢
 について改めて気づかされ、振り返る
 ことができる時間を大切にしなければ
 ならないと感じました。

仲間、他人がいてるからできる「み
 ていないようで実は見ている」。仲間
 がいる場所で見たり、聞いたり：感じ
 方は色々あるかもしれないが、今すぐ
 ではない、明日でもない、

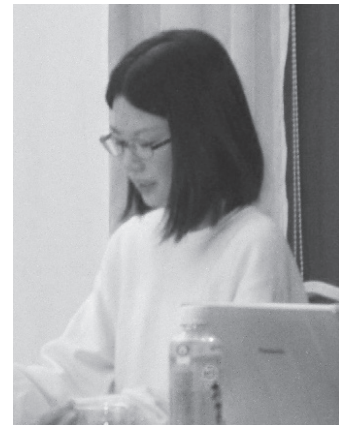
来週でも：半年でもないかもしれない
 ないけれど「出来た」という成功体験
 はきつとやってきます。その成功感動
 体験を大人も味わえることを励みに
 「じっくりと丁寧に」とこれからも関
 わっていきたいと思います。つい発し
 てしまう「ダメ」の言葉。ダメで終わ
 っていないか。ダメだとされる行動や

発言には「いいね・素敵だね」な行動
 に移せるヒントがあるかもしれませ
 ン。社会人となる日が近づいている中高生
 指導員としても「焦り」がある関わり
 方になっていないかという思い。日
 頃、問題行動となる事象が会議などの
 テーマになりがちですが、今回の実践
 報告というきつかけを頂き、活動中
 の「嬉しい出来事」を共感しあえる支
 援をこころがけ、「嬉しい出来事」か
 ら次に出来る事を次の目標にできるよ
 うにしていきたいと思いました。

出会いから6年 ～認め合いながら育つ～

笠原：療育を継続することを前向きに
 検討され、お母さんの強い希望でひま
 わり園に入園してきてくれたDくん。

ひまわり園の3年の生活の中で、とて
 もたくましい男の子に成長してくれま
 した。自我の誕生により、自分の意図
 をもった一人の人間として成長しはじ
 めたDくん。長期化するイヤイヤ期に
 お母さんはとても苦労をされましたが、
 卒園前には1歳半という発達上の大き
 な節目をしつかりと越え、お母さんも
 職員も、Dくんがしつかりと発達する
 ためのエネルギーを蓄え育ってくれた
 のだということを実感して、次のステ
 ージに向かうことができました。しか
 し、次のステージを選択する際に、再
 度お母さんは我が子には障害がある
 という事実をつきつけられることにな
 り、その事実と向き合うことになりま
 した。就学前に、お母さんが私に泣き



笠原（発表者）

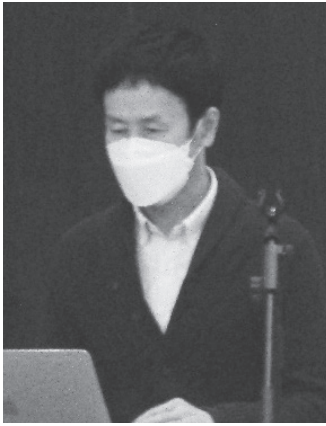
ながら話してくれた本音を聞かせても
 らい、就学の選択をサポートしていく
 中で、「我が子には障害があるという
 事実に向き合う」という課題は、告知
 後に限ったことではなく成長の過程の
 なかで繰り返し乗り越えていく課題な
 のであるということに気づかせてもら
 いました。ダウン症であるDくん親子
 は、告知が早い分、もしかしたら今ま
 で人一倍このサイクルを乗り越えてこ
 られたのかもしれない。そのたびに、
 悩み抜いた選択の先で踏ん張って、前
 向きに変化していく子どもの姿をどら
 えしていくことが必要になります。「我
 が子には障害があるという事実に向き
 合う」という課題を乗り越える中では、
 きょうだいの思いなど他の課題にも向
 き合っていかなければならなくなると
 思います。今回のDくん親子の事例で
 は、就学への選択はお姉ちゃん「D
 くんと同じ学校に通いたい」という願
 いを叶えられないことに、お母さんは
 一番苦悩されたのだらうと思います。
 きょうだいのいる他の家庭でなら、わ
 ざわざ願わなくても「あたりまえ」に
 示されている選択肢をお姉ちゃんには

与えてやれないということが、再びお
 母さんの自責の念を強めたのではない
 かとも思います。最終的には学校間で
 交流できる制度があり、地域の小学校
 が熱心にその制度に取り組んで下さっ
 ている事実があったことで、お母さん
 が気持ちに折り合いをつけることに至
 り、Dくんの就学先として支援学校を
 選択することを決断されました。最後
 に、障害のある子どもたちは、ゆっく
 りじっくり発達の歩みをすすめていく
 ことになりました。そのために、子ども
 の育ちに希望を見出し、育児の喜びを
 感じることは時間を要することがあ
 ります。療育を「子育てへの希望や
 育児の喜びを見いだすための支援の一
 つでもあるのだ」と感じてもらえるよ
 う、みんな子どもたちにとって良い
 保育・療育を考えていくこと。私は発
 達相談員として、発達相談の場を課題
 に向き合うばかりではなく、子育てへ
 の希望や育児の喜びを見いだすための
 場ともしていくために、担当するお子
 さん一人ひとりの育ちをしつかりと捉
 えていけるよう研鑽していきたいと思
 います。

4名の職員の実践報告を受け、職員
 からも様々な意見や感想がありました。

山本：最後に、和歌山大学教育学部准
 教授竹澤大史先生からご助言をお願い
 します。

竹澤先生：素晴らしい実践報告でした。
 まず、くるみ教室のAちゃんとの給食



竹澤先生（助言者）

のことでの先生方の緊張感のある攻防、赤木先生のお話を聞く機会があり、そして、先生方の気づきがあったということでした。その中で、Aちゃんの本当の願いが何かをくみ取り、そうすることでAちゃんが変わってくるわけですよね。また、ご家族とのかかわりも大変丁寧でした。家族支援も今日の一つのテーマになるかと思えます。つくしんぼ園のBくんは肌と聴覚の感覚過敏で保護者の方や先生方も困った状態だったと思えます。その強いこだわりも、少しずつ変化が見られるようになって、その代わりに自分の気持ちを伝えたいという気持ち表れ、自傷・他傷で嘔むという姿での表現が出てきました。私たちは発達という何かできるといいイメージを持ちますが、発達から新しい課題が見えてくることもあり、そこで、私たちは迷ってしまいます。先生方のBくんのご両親との関わりも大変丁寧だと思えました。

青空のC君。思春期ならではのダイナミックな行動があつて、発達段階と実年齢の思春期があり、難しい時期だと思えます。その中でも、ちよつとこだわりのあるようで、こだわりと言っても本人はその行動を通して、気持ちを整え、不安な気持ちを解消しようとするために、こだわるといふことであり、そういう見方もできると思えます。また、C君とコミュニケーションをとろうとする試みも見えました。この時期は仲間のことをとてもよく見ているし、たぶん職員の姿も見ていていると思います。子どもが変わったときは、私たちの鏡というか職員の姿を映しているのではないかと思えます。

ひまわり園のDくんは、発達がゆっくりで、2歳の時に大きな手術をし、お母さんの悩み、焦り、葛藤は想像できないものですが、すぐく丁寧にお母さんに関わっていただいたと思えます。就学は本当に悩みますよね。私も和歌山市で就学相談に携わっていますが、いろんな方の思いや願いがあります。少しおさらいということでお話させていただきます。発達というのは、ことばの発達、からだの発達、社会性の発達など領域が分かれますが、それぞれの領域がお互いに繋がっています。ともすれば、個別の発達について考えがちになりますが、ことばの発達、体の発達、社会性の発達を全体的に捉えていくことが大事だと思えます。人間の発達は連続的な課程（プロセス）といわれ、一直線ではなく、階段のようなイメージで少しずつ登っていく、そして階段を上るには、世界が変わってしまうような大きな変化があると変化

なの上るときに大きな力がいらいます。お子さんによっては少し時間がかかったりとか、難しい壁になることがありますが。それは悪いことではないけれど、乗り越えようとしたときに、本人の力だけでなく、保護者の力、先生方の力を合わせることで大事だと思えます。タテの発達とヨコの発達といわれ、タテの発達とは質的な変化のこと、新しい、より高次元の水準ができるようになること。ヨコの発達とは、今持っている力をいろんな人というんな場所です。充実していく、この時期がすぐく大事な時期で、次の階段に上るためにエネルギーを貯めるとも大事な段階です。発達の「最近接発達領域」という難しい言葉がありますが、これは、子どもが発達段階を捉えて、どんな取組が必要かを考える時にすぐく便利な考え方のことで、例えば、現在の発達水準と将来の発達水準をイメージしたときに、その間にクッションとなるような領域、例えば、一人ではできなくても、支援があればできること、お家だどできること、仲間とならできること、園ならできること、先生とならできること、半歩先をみつめることが大事ではないかと思えます。

言葉の発達について考えてみたいと思えます。言葉には話し言葉や書き言葉がありますが、言語学でいいますと三つの働きがあるとされています。一つは概念の働き、二つは行動調整の働き、三つはコミュニケーションの働

き、コミュニケーションというのはキヤッチボール、考えていることや思いを伝え合う、そのために言葉を使うということですね。

コミュニケーションの発達支援で、お子さんから周りに働きかけることが難しいときに、先生方や保護者の方が働きかけることでコミュニケーションが成立する、これが非常に大事なことです。また、ずっとそうではなく、自分から話しかけること、これも非常に大事なことです。決して、勉強して教えるのではなく、楽しい環境の中で、友達の中で遊びながら自然な生活の中で見つけていくことが大事なことです。

最後に、ご家族との協働ということで、色々なアプローチがあります。ご家族の何かモヤモヤした悩み、不安な気持ちに寄り添う（カウンセリングニーズ）、また、ご家族と一緒に具体的な取組を考える（コンサルテーションズ）ことは、お子さんへの支援と同じくらい大事な支援と言われています。ご家族同士、保護者同士のつながりを支援する、例えば、保護者会活動を通じてご家族をバックアップする等のこと、がとても大事なことです。ぜひ実践していただければと思います。

山本：30周年記念事業として職員の実践報告会の実施が決まってから約半年間、業務終了後の時間外に集まり、何かと相談し合った職員の皆様、発表者の4名を含めお疲れ様でした。



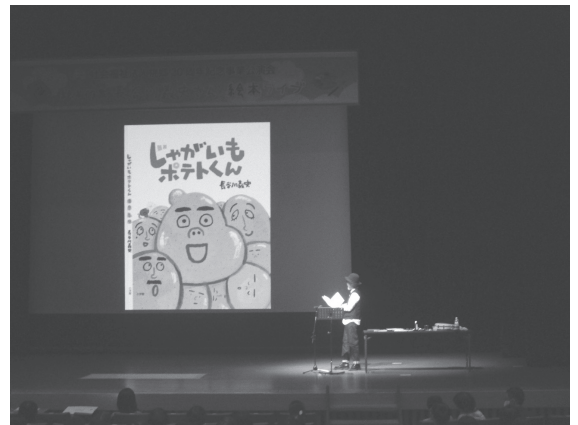
即興で書いていただいた絵

法人設立30周年記念事業公演会 長谷川義史「絵本ライブ」

さる、11月4日(土)に粉河ふるさとセンターで法人設立30周年記念事業公演会として、絵本作家の長谷川義史先生をお招きし、「絵本ライブ」を開催させていただきました。

当日は、保護者の皆様、地域の保育士や地域の皆様等、約200名にご来場いただきました。

「絵本ライブ」は、絵本の解説や読み聞かせ、ウクレレ演奏やライブペインティングといった盛りだくさんの内容でした。ライブペインティングでは、桃郷30周年を記念して、その場で描いた絵をプレゼントしていただきました。長谷川先生の独特な面白い語り口で繰



公演会での長谷川義史先生

人権研修を実施

「生きづらさと罪と罰」

り広げられる、笑いあり涙ありのトークで1時間30分の公演会もあっという間に終了したように感じました。会場も笑い声に包まれ、本当に楽しいひと時を過ごすことができました。長谷川先生、素敵な公演会とプレゼントをありがとうございました。皆様、ありがとうございました。(法人事務局 明坂拓哉)

10月20日(金)に社会福祉士の小川多雅之先生をお招きし、「生きづらさと罪と罰」についてご講演頂き、罪を起こしてしまった生きづらさを抱えた方々への理解、支援について学びまし



た。

一般的な視点では「罪を犯した人が悪い」と自己責任論で完結してしまうことも多くあるかと思いますが、一人ひとりに生まれ持ったいきづらさがある。生い立ちにしんどさがあった。という一人ひとりの背景を探る視点や、罪を犯した後どう生きていくか、共に伴走する先生の姿勢は、福祉の現場で働く私たちが持つべき視点ではないかと感じました。

受講した職員の感想に、「誰しも加害者になってしまう可能性はあり、そうならないためにも子ども達自身が主体的に生活できる保育・療育に取り組んでいきたい」とあり、桃郷が長年取り組んできた「子どもたちが主人公の保育」の大切さを再確認できた機会になりました。

(法人事務局 小谷祐一郎)



桃郷の理念



- ① すべての子どもたちが平等な権利を享受し、地域社会に参加できることを目指します。
- ② 保護者、家族、地域と共に学びあい、共に育ちあうことを目指します。
- ③ ひとり一人の子どもの発達を理解し、生活を通して豊かな人生を歩む基礎づくりを目指します。
- ④ 地域福祉の担い手として、地域ニーズに応える取り組みを実践します。
- ⑤ 保健、福祉、医療、教育、地域の皆様と手を取り合い、子どもを支える地域づくりを目指します。

発達講座⑩

『片づけ』発達の読み解くと？

くるみ教室

発達相談員 鈴木 智恵

桃郷では、発達保障に基づく実践を行っています。今回からの新シリーズでは、「日常の○○発達の読み解くと？」という事で、日々の何気ない（ように思える）ことを、発達、あるいは発達保障という立場で考えるところとなるのか、発達相談員で順番に解説していきます。

まず、新シリーズの始まりにあたり「発達とは？」という話から始めたいと思います。発達とは、本人のねがいに基づいて、自分で自分を作り変えていく営みです。①本人が主体であるということ、②本人の要求・ねがいに基づく権利であるということ、③またその変化は、「○○ができるようになる」というものだけでなく、持っている力を、いつでもどこでも、だれとでも使いあうなど生活そのものを豊かにしていく、人格を膨らませていく営みも含めること、④そして、これらを、個の発達としてのみ見るのではなく、個人・集団・社会という3つの系から考えていくことも発達保障の大切なポイントです。

では、そうした立場に立って、日常の何気ない動作・行動の持つ意味を考えていきたいと思えます。

記念すべき第一回は『片づけ』です。「片づけをどう教えたらいいですか」というのは、幼児期に保護者から出されるわりとあるあるなお悩みのようにも思えます。

『片づける』の基本動作は、ある物をつかんで、ある場所に入れる・置くというところだと思います。この狙いを定めて入れる・置くというのは、発

達的には「定位操作」とよばれるもので、およそ十か月頃から可能になる動作です。この頃の、子どもたちは、出す・入れるを幾度となく繰り返します。ティッシュや棚をすべてひっくり返されたという記憶のある方もおられるのではないのでしょうか。そうした中で、今度（へ入れる）という行為の面白さにも気づいていきます。型はめのカチツとはまる感触、側溝に小石をぽちゃんんと落とす快感はその代表でしょう。そうした子どもの動作に、大人は思わず「上手ね」「入ったね」と拍手をすることでしよう。入れることそのものの快感であったものが、周囲の人によって（入れる）という行為として意味づけられます。そこで褒められたり、認められたりする経験を通して、子どもは（へ入れる）ことの、より文化的・社会的な価値を学んでいきます。片づけの始まりも、この定位操作にあると言えます。

このように考えると、「最初から」「全部」「きれいに」片づけるということは非常に難しいことです。片づける（入れる）場所もイメージしないといけませんし、片づけた後のスッキリとした部屋もイメージがついていないとモチベーションは続きません。

まずは入れる場所を示す、そこに一つ入れたことを共に喜び合う、そのことが片づけの原点です。そして、その前にある、片づけとは真逆とも思える、出し散らかすという段階もとても大切です。一つ入れるができるようになったら、少しまとまった単位（車だけ、この箱だけ）のへ入れるVに、あとはほとんど大人が片づけ「スッキリ」「完成」の達成感を共感しあえるとステキです。でも、やっぱり、頭でわかっていても「大人でも難しい」ということに尽きるかもしれません……。

社会福祉法人 桃郷

■ 児童発達支援センター

ひまわり園	〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3	☎0736-66-0995	☎0736-66-1905
つくしんぼ園	〒649-7207 和歌山県橋本市高野口町大野74番地1	☎0736-42-0100	☎0736-43-0200
つばみ園	〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月736番地1	☎0736-66-0013	☎0736-66-0023

■ 児童発達支援事業

木の実教室	〒649-6236 和歌山県岩出市首屋370番地17	☎0736-62-0815	☎0736-62-0856
くるみ教室	〒649-6246 和歌山県岩出市吉田228番地1	☎0736-67-7788	☎0736-67-7799
くまの子教室	〒649-7113 和歌山県伊都郡かつらぎ町妙寺146番地2	☎090-3673-9958	

■ 多機能型事業所

あすなろつばさ	〒649-7112 和歌山県伊都郡かつらぎ町中飯降1062番地1	☎0736-23-2900	☎0736-23-2929
---------	----------------------------------	---------------	---------------

■ 放課後等デイサービス

青空	〒649-6427 和歌山県紀の川市西井阪224番地1	☎0736-77-0070	☎0736-77-0050
粉河青空	〒649-6531 和歌山県紀の川市粉河46番地	☎090-6969-4195	
青空つばさ	〒649-7113 和歌山県伊都郡かつらぎ町妙寺146番地1	☎0736-22-5551	☎0736-22-5561

■ 相談支援事業所

桃郷障害児者相談支援センター			
	〒649-6222 和歌山県岩出市岡田649番地2	☎0736-67-8891	☎0736-67-8892
つくしんぼ相談支援室（つくしんぼ園に併設）			
	〒649-7207 和歌山県橋本市高野口町大野74番地1	☎0736-42-0100	☎0736-43-0200

■ 法人本部

事務局	〒649-6112 和歌山県紀の川市桃山町調月58番地3	☎0736-66-8851	☎0736-67-8851
-----	------------------------------	---------------	---------------



しめ縄作りを体験!!

古くから受け継がれてきたしめ縄文化。家に悪気が入らないようにするための物だそうです。放デイ部では、数年前より地域の有志の方に来ていただき毎年子ども達としめ縄作りをしています。しめ縄に飾る品や作り方の意味、方法を教えていただき、一人ひとり力一杯縄を捻っていきます。上手いかない時は、有志の方に声をかけ、手伝って頂き、飾りを付ける時にも、もう一度意味を教えてもらいながら作り上げました。自分で作ったしめ縄を持って写真を撮る際、どこか誇らしげで、達成感のある笑顔でした。終了後は有志の方と子ども達とで一緒に豚汁を食べ、お礼を言って終わりました。今はどこのお店でも様々なしめ縄が売っている時代。しかし、自分たちで一つ一つ意味を知り、作っていく事は大変幸せな事です。今後も色々な伝統行事に触れられる機会を作っていきます。(青空つばさ 高橋真伊)



管理者からの施設紹介⑩

児童発達支援センター つぼみ園

園長 沖殿 佳子

☆施設の概要

沿革：2017年（平成29年）4月開設
 住所：紀の川市桃山町調月736-1
 定員：30名
 利用者：30名
 対象年齢：就学前
 保育時間：午前9時～午後3時15分

☆保育目標

- ①子どもたちの人権を尊重し、豊かな発達を目指します。また、本物体験や見通しを持って主体的に楽しめるよう、丁寧に保育の構築を行います。
- ②保護者に寄り添い、連携に努め、共に学び合う保育を保障します。
- ③地域の保健師、医師、教師、保育士等々、関係者と連携をとり、共に子育てに積極的に参加できる保育を目指します。

☆保育内容

それぞれの季節を大切にしながら、楽しい毎日になるよう職員一同力を合わせて、日々の保育に取り組んでいます。桃郷の基本理念に基づき、子どもたちの様子に合わせながら柔軟に、より良い保育を展開していきたいと思っています。5歳児さんには『プライドを育て、自信へと繋がる毎日に』、新入児さんには『安心できる居場所となれるように』、また、在園継続児さんには『これまで培った力を発揮し、友達への気持ち膨らんでいくように』、そんな毎日ワクワクした時間を過ごせる保育を提供していきたいです。そして、幼児期に大切な基本的な生活習慣(食べて寝て排泄する)をしっかり身につけながら、丈夫な身体作りに繋がればと思っています。

つぼみ園は山や畑に囲まれた自然豊かな地に建っています。山道さんぽ・マラソンコース・どんぐり坂・ムシャムシャの森・崖登り…と散歩コースも様々。子どもたちから散歩先のリクエストがある日もあります。帰ってくると竹やどんぐり、葉っぱ、長い草、ダンゴ虫にカタツムリ…といつもお土産がいっぱいです。お日様や風を感じ、五感を刺激されながらの散歩は本当に楽しそうです。また、ご近所の方々にもかわいがっていただき、挨拶は勿論のこと、お野菜や果物を子どもたちにと届けて下さり、気にかけてもらっています。恵まれた環境の中で子どもたちが生活できていることを実感し、園としても嬉しく思っています。

最近、5歳児さんが収穫した新米が届き給食に出ています。グルメな子どもたちは今までよりも2合プラスしているのに、残飯はほぼ無しとのことです。食欲旺盛で何よりです。

秋から5歳児活動もスタートしています。週一回のスイミングやクッキング・園外活動と毎日大張り切りです。

子どもたちがみんな「つぼみ園は楽しい」と思ってもらえる保育をこれからも展開していきたいと思っています。

ご寄贈等のお礼

皆様方のご寄付、ご寄贈ありがとうございました（順不同）

わくわく親子教室様

杉岡照五様

黒田忠男様

一般社団法人生命保険協会様（ポータブルスピーカーほか）

和歌山県歯科衛生士専門学校様

絵本読み聞かせ会「にんじん」高木佳代子様（絵本）

編集後記

今年度の「ももさと通信」も今年が最後の発行となりました。今年度は桃郷30周年を迎えた記念の1年でした。6月、30周年記念典からスタートし、11月絵本作家長谷川義史さんの記念事業講演会、そして今号に掲載されている実践報告会で幕を閉じました。桃郷の歴史を振り返り、改めてたくさんさんの熱い思いや願いを感じる1年となりました。

また、コロナが落ち着き、数年ぶりに桃郷まつりが復活。その会場には通園している子ども達だけでなく、懐かしい顔ぶれに溢れ、大盛況！実行委員会も予想以上の参加人数に驚いたほどでした。たくさんさんの卒業児さんに会える年にもなったこの1年。頼もしく大きく成長された姿と、桃郷があつて本当によかった。のたくさんの声に職員一同大きなパワーと元気を頂いた1年にもなりました。1年目を立ち上げた先輩方・保護者の皆さんの足元にも及ばないことだらけですが、子ども達の豊かな発達保障を、と一途に願って歩み続けてくださっているパトンをしっかりと引き継ぎ繋げていきたいと思えます。

(平原)